

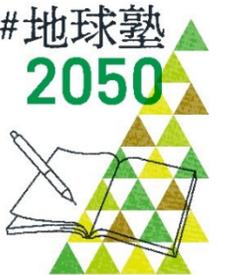


7月11日(火)

2023(令和5)年

発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



地球を守るために

脱炭素社会を実現するため、水素の活用はカギとなります。高効率な水素製造装置「ナノバイオ・エレクトロライザー」を開発した、カナダのジャンクロード・テシエ博士(応用科学)とタッグを組んで、さまざまな社会課題の解決に取り組もうとしている人がいます。再生可能エネルギー事業を手がける「くにうみアセットマネジメント」(東京都港区)の山崎養世代表です。7月11日、芝浦工業大学柏中学校(千葉県柏市)の生徒29人に、水素が作り出す新しい社会について話しました。

私たちの使命

私はずっとテレビなどで「地球温暖化対策」と言っていることに疑問を抱いてきました。温暖化対策と言っているだけで、あまり実行力がなっていないからです。日本でも、地球温暖化について真剣に考え、行動した人は少ない

と思います。私もその一人でした。しかし地球塾で、このまま温暖化が進んだ場合の危機、脱却するための一つの道である水素エネルギーの話聞き、私は一つの使命を感じました。それは「この30年ほどで、私たちが地球温暖化を進めてきたのなら、この後の30年間で地球温暖化を抑



制し、元に戻さなければならぬ」。そんな使命を果たすため、私たちは水素エネルギーに注目すべきだと思いました。水素エネルギーは化石燃料を燃やしている火力発電とは異なり、水をクリーンな電力で分解した水素を使って発電し、また水ができるため、資源が無くならず持続可能なエネルギーで、研究をもっと進めていきたいです。

【佐々木歌英】



水素が世界を救う

講義を聞いて、水素が自動車の燃料などのエネルギーになる以外にも、人の抗酸化や植物の光合成の効率化など、さまざまな分野で活躍できることを初めて知りました。特に印象深かったのは、水がない地域にも、水素を圧縮してタンクで運んでいけば、水や電気を作ることができるという点です。アフリカなどで川の水をくんで生活している人たちに行き渡れば、安全な水と電気を行き渡らせることができ、平等に一步近づくことができます。毎日の水くみで学校に通えない人たちも、学校に通わせることができます。水素の可能性を知り、自分もこの研究に携わって世界の人々を救いたいと思いました。

【八木瑞葵】

